

## 令和5年度第1回大阪府スマートシティ推進本部会議 議事概要

■日 時： 令和5年10月31日(火) 午後4時から午後4時30分まで

■場 所： 大阪府庁 本館1階 第三委員会室

■出席者： 知事、副知事、各部局長等

### ■議事概要

#### ◇吉村知事（はじめに）

- ・本日の議題となっている生成A Iは、業務の合理化、効率化に資するものと考えている。文章作成、翻訳、キャッチフレーズあるいは答弁案を作るなどといった、これまで当然のように職員の皆さんが全て行っていた作業について、内容の正確性を確認するなど、引き続き行うべき部分はあるが、全ては行わなくてよくなり、役所の業務そのものを変革する大きな可能性を秘めている。また、職員の皆さんの業務を効率化できれば、住民サービスの向上等に力を注ぐことや職員の皆さん自身のQOL向上を図ることができるようになると考えられる。
- ・職員の皆さんにトライアルで使ってもらい、全体の業務効率化を図ることができるかや、便利だと思ってもらえるかが、生成A Iを本格的に導入するかのカギとなる。トライアルの結果をもとに、得られる効果や課題、注意すべき点などについて検証していきたい。渡邊副知事を中心に、トライアルの効果等を踏まえ、生成A Iの本格的な導入に係る検討をお願いします。

#### ◇坪田スマートシティ戦略部長

- ・今回のトライアルでは、事業者の協力のもと、職員の皆さんに生成A Iを無償で利用いただける環境を用意した。生成A Iの利活用により、様々な効果を得ることができるが、一方、情報漏洩や、出た回答をそのまま利用することなどにより、思いもよらない事象が生じる可能性もある。
- ・そういったリスクへの懸念も考慮し、安心して利用できるよう、「生成A Iの利活用に向けた基本方針（試案）」に利用ルールや活用例を記載したので、トライアルで活用いただきたい。
- ・事務局で用意した活用例以外にも、職員の皆さんが創意工夫の上で利用してもらうことによる好事例が生まれることにも期待している。若手・中堅職員の皆さんを含め、積極的に今回のトライアルに参加いただき、生成A Iを活用いただくよう働きかけをお願いしますとともに、導入効果を定量的・定性的の両面から把握・分析できるようアンケート等にも協力いただくようあわせてお願いします。

#### ※この後、事務局より

資料1「基本方針（試案）」、資料2「スケジュール」、資料3「生成A I画面イメージ」について説明  
その後、スクリーンに投影しデモを実施

#### ◇事務局

##### 【資料1 基本方針（試案）】

- ・1章では生成A Iの概要と一般的な留意点について記載。対話形式で質問を繰り返すと回答を自然

な日本語で返してくれるが、文責は自分にあると認識していただくことなどが留意点となる。

- ・2章では守っていただくべき4点のルールを記載。これらを意識しながらトライアルをお願いする。
- ・3章では利活用の事例を記載。あいまいに質問を投げるとあいまいな答えとなることもある。対話で絞り込んでいただくことなどがうまく活用するコツである。
- ・この基本方針（試案）を含め、課題等があればご意見を踏まえてブラッシュアップしていく。

#### 【資料2 スケジュール】

- ・本日の会議を受け、11月6日より1月26日までの約3か月間でトライアルを実施する。
- ・11月6日のトライアル開始日には、オンラインでの勉強会を開催。参加できない皆さんにも、後日に録画視聴いただけるよう対応する。

#### 【資料3 生成AI画面イメージ】

- ・今回は2種類のトライアルを実施。1ページ目が全庁のトライアルで用いる一般のツール、2ページ目がスマートシティ戦略部のトライアルで用いる学習環境を有するツール。

#### 【デモ】

- ・全庁のトライアルで用いる一般のツールにより、「大阪府の魅力を教えて」と入力し、出力された回答を確認するとともに、その回答に対して、さらに「その内容を小学生に説明するにはどう説明したらいいか」と入力し、出力された回答を確認するデモを実施。

（質疑応答・意見等）

#### ◇商工労働部長

- ・商工労働部でも様々なところで利用していきたい。基本方針（試案）記載の4つのルールのうち、当部では、事業者との関係においてルール1の重要度2の情報を取り扱うことが多い。部内における議論の段階や、情報の公表時期などにより重要度も変わってくる。今回のトライアルで、職員の皆さんが委縮して使わないということにならないよう、部内でしっかりと議論して、トライアルに取り組んでいきたいと思っている。スマートシティ戦略部においても、入力できる情報の取り扱いなどについて相談に乗ってほしい。各部局が持つ情報の内容や重要度等も異なるので、その辺りを考えながら、トライアルを行っていくことが大事だと感じた。

#### ◇渡邊副知事

- ・生成AIは利用の仕方により非常に役立つツールである。生成AIは、その仕組みとしてそれらしいものを繋ぎ合わせて回答を作成するツールであり、生成AI自体が内容を理解して回答しているものではない。ルールにもあるように、出力結果を確認するなど、利用の仕方に注意は必要ではあるが、存分に活用いただきたい。
- ・今回はトライアル期間が限られているが、職員の皆さんに様々な利用を試みていただくとともに、アンケートで数多くのフィードバックをいただき、本格的な導入に係る検討の材料としたい。
- ・トライアルについては各部局長から職員の皆さんへの働きかけが大事。知事も冒頭で言われたように、働き方改革や業務効率化により職員の皆さんの業務負担が軽減される手段の一つとして活用できればいいと考えているので、ご協力よろしく願います。

◇吉村知事（おわりに）

- ・先ほど事務局からも4つのルールが示された。また、勉強会でもどういった質問の仕方がよいかなどを説明されるのかと思う。
- ・今回のトライアルでは、入力した情報はツールを提供する事業者側では学習されないが、入力して良い情報、良くない情報というものを、職員の皆さん一人ひとりがしっかりと考えるように伝えてほしい。例えば、長い文章を要約する際は、コピーアンドペーストで入力するかと思うが、分量が多くなった時に、個人情報が入るなどといったことがないように、徹底してほしい。
- ・行政として、そのような点には十分留意しつつ、ルールを守ってたくさん活用してほしい。

以上